

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043(222)7207 番
2000.8.21 No. 5183

8・9 ナガサキ反戦大集会開催される

八月九日、一七時より、長崎市NBCホールにおいて、『アジア大激動!めざめよ労働者!被爆五周年、八・九長崎反戦大集会』が、開催された。

集会の第一部として、まず、ウチナー・フォークシンガーのまよなかしんやさんによる、熱いメッセージ&ライブで集会を盛り上げた。

つづいて主催者代表挨拶、引き続き福岡反戦共同より連帯の挨拶を行なった。

ここでもう一度、まよなかしんやさんが登壇し、第二次世界大戦での沖縄のあまりにも悲惨な状況、さらに天皇制を強烈に批判した。

引き続き第二部に移り、カンパアピールの後、九州労組交流センターの仲間より基調報告を受けた。その内容は、『ヒロシマ・ナガサキを繰り返すな!今こそ反戦・反核闘争の大衆行動をまきおこそう。長生きし過ぎた帝国主義は、第三次世界大戦への衝動に駆られている。市場としてあるアジアを我が物とするために、沖縄サミットで対アジア戦略を話し合っているのです。そして日本を「ガイドライン体制下」で、有事立法を構築させ、沖縄を最前線基地にするつもりです。しかし、これを阻止できるのは、労働者階級です。これを土台に原水禁運動の新たな潮流をつくりだし、核のない二十一世紀への道を切り開く展望と決意を訴えます』と、力強いアツピールを行なった。



集会は第三部に移り、ここで「ナニワ金融道」の著者である青木雄二さんより、『日本政府のやってきた事は、何のためにやっているのか分からない。河口堰しかり、干拓しかり。今の若者の考え方は、自民党Ⅱ自由で民主的な党となっている。多数決は民主主義ではない。いい例は「天動説と地動説」だ。今の日本の教育は哲学を教えていない。「核」一つとっても、哲学では、使つてはいけないとなる。マルクス主義をもっとしっかり勉強しよう。』と、今こそマルクス主義労働運動を再生し、労働者が主人公の世界を構築しなければならぬことをホワイトボードを使って語った。

この後、各団体、学生の決意表明を受け、つづいてメッセー・ジ(三里塚・北富士・関東・全国連・都革新)が紹介され、反戦共同行動委員会の三角さんのまとめ、そして団結ガンパローで集会は、大成功のもとで終了した。

戦争のための改憲。 有事立法阻止しよう!

八月十五日、一三時から、東京・中野ゼロホールにおいて、『「神の国」と軍靴―歴史はくり返すのか―』が開催され、労働者市民の集い」が開催され、労働者・市民、学生など三二〇名が結集する中、二〇世紀最後の「八・一五」を闘いぬき新たな反戦・平和への闘いに立ち上がることを誓い合った。

集会では、まず、松本ヒロさん(コメディアン)のユーモラスでなおかつ風刺の効いたコントが参加者の喝采を浴びた。

次に、『有事体制下の二〇〇〇年八月一日』と題して、作家の梁石日(ヤン・ソギル)氏と平和遺族会の西川重則氏による対談が行なわれ、日本はどうなるのか、日本人は何をしたら



よいのかなど、梁氏からの鋭い問題提起がなされた。

さらに、大江志乃夫茨城大学名誉教授による講演では、一三〇年にわたる侵略と虐殺の歴史が検証され、最後に闘いの現場からの報告が行なわれ、国労の仲間からは「4党合意」反対の闘いに全力を挙げる決意が表明された。

読売新聞などで「憲法改憲試案」が公表されるなど「改憲」に向けた反動的な動きが顕著になる状況の中で、改憲阻止―有事体制を許さない闘いがますます求められている。今年の「八・一五集会」は、こうした戦争に向けた反動攻撃に立ち向かう一歩をしるす闘いとしてかちとられた。